

# 金沢文庫蔵「往生裏書」について

上 杉 智 英

## 序

神奈川県立金沢文庫には「往生裏書」と仮称される断簡が所蔵されている。この断簡は前・後欠の為、外題・内題・尾題等は確認できないが、真源(1064—1136)撰『往生要集裏書』<sup>(1)</sup>(名古屋真福寺宝生院所蔵、以下、真福寺本)と対照すること、<sup>(2)</sup>『往生要集裏書』の断簡であると比定するに至った。本稿は『往生要集裏書』の概要を述べ、先行研究により確認されている伝本を踏まえた上で、金沢文庫蔵「往生裏書」(以下、金沢文庫本)の書誌概要を紹介すると共に、その資料価値について言及するものである。

### 一、『往生要集裏書』概要

『往生要集裏書』は比叡山東塔南谷の勝陽房真源による『往生要集』の注釈書である。序文・結語はなく、「本文云……」として『往生要集』を抜き書きし、それに対し「裏書云……」

「裏云……」として注釈を施すといった形で構成されている。浄土宗第三祖、良忠(1199—1287)は『往生要集抄』<sup>(3)</sup>(叡山文庫天海蔵)第四冊末において、

此集(『往生要集抄』：筆者注)具書事(中略)裏書上下(少少本説等檢之未<sup>(4)</sup>知誰人ノ作或云真源)

(叡山文庫調査会編『叡山文庫天海蔵識語集成』、43頁)と、『往生要集裏書』が『往生要集』所載の文に対する本説を集録したものであることに言及されている。この認識の通り、注釈の内容の大半は本説の提示であり、その他僅かに語句の説明がみられる。各注釈はそれ自体で完結しており、相互に関連して思想等を明示するといった体系的なものではない。なお注釈の対象とされる『往生要集』の抜き書き(金沢文庫本は九文、真福寺本は三六文に及ぶ)の多くは譬喩・因縁であるが、それらは『往生要集』において教義上問題となるような箇所ではなく、注釈の文も譬喩・因縁の典拠である経論釈からの引用であって、真源の私釈は皆無である。この様に本

書は『往生要集』の注釈書でありながら、その注釈内容は直接『往生要集』の教義・思想を問題とするものではない。<sup>5)</sup>このような性格を有する本書撰述の背景としては、本説を知悉していることが道俗を問わず要件とされていた中世学問の有り様が一因として考えられよう。<sup>6)</sup>

## 二、先行研究

『往生要集裏書』は『仏書解説大辞典』（第一巻、367頁）では「欠」とされ、従来、良忠撰『往生要集義記』所引の三文、並びに佐藤哲英氏によって昭和四三年に名古屋真福寺から発見された『天台往生要集』所収の『往生要集勘文』（前欠断簡）所引の五文の計八文の逸文が先行研究によって確認されているだけであつた。<sup>7)</sup>ただし実際には、佐藤氏の紹介された断簡は『往生要集勘文』ではなく『往生要集裏書』の後半部であり、その前半部に相当する箇所が『往生要集裏抄』の書名で架蔵されていることが、既に『大日本史料』第一編之二三（113・114頁）で指摘されている。<sup>8)</sup>つまり先行研究において確認されている『往生要集裏書』の伝本は真福寺本一帖のみであり、その他に『往生要集義記』所引の三文が僅かに知られているというのが現状である。

ただし真福寺本を『往生要集義記』所引の『往生要集裏書』三文と対照すると、うち一文は一致しない。これを真福寺本

が祖本『往生要集裏書』の抄出本であることの証左と捉えるむきもあるが、一致する二文が単に「裏書云……」「裏云……」と記されるのに対し、一致しない文は「彼の裏書に云く」と記され、またその注釈内容も本説の提示・語句説明の何れでもないと考えられる。『往生要集義記』においてこの文は、

問。五道六道開合何経論説。（中略）授決集<sup>五道六</sup>謂。浄名経時我程者。何別不立一道云成。故開為六道也。然而為正撰之鬼畜故已上。又彼裏書云。且依法華。以六道為正<sup>上</sup>。

〔浄土宗全書〕15、193—194頁

と、五道六道の開合の問題に関して引用されており、形式・内容の何れもが現在確認されている『往生要集裏書』と合致しないことを合わせてこの文脈を読めば、これは『授決集』の裏書であろうことが推測され、『往生要集義記』所引の『往生要集裏書』は二文ということになろう。<sup>9)</sup>

## 三、金沢文庫本について

書誌概要は、神奈川県立金沢文庫所蔵、資料番号九〇・一〇。写本。書写年次・書写者は不明（鎌倉中・後期か）。楮紙。粘葉装。現存一四丁の残欠本。半葉七行、一行二〇—二三字。押界。法量、縦二三三mm、横一五一mm、字高一九五mm。天界二一mm。地界一七mm。界幅一八mm。前欠（三紙）・後欠の為、

外題・内題・尾題等は確認できない。二丁裏・四丁裏・六丁裏・八丁裏・一〇丁裏・一二丁裏・一四丁裏の各継目に「往生裏書〇丁」の隠し丁付けがみられ、これに基づき書名を「往生裏書」と仮題し、架蔵されたものと考えられる。二丁裏―三丁表間、六丁裏―七丁表間に錯簡が認められる。金沢文庫本は真福寺本の六丁表、七行目―二二丁裏、四行目に相当する断簡であり、真福寺本を完本とみなした場合、その残存率は凡そ三割といえる。

#### 四、金沢文庫本の資料価値

金沢文庫本の出現により、真福寺本の対校が部分的ではあるが可能となった。その結果において、金沢文庫本は誤字・脱字と考えられる箇所が見られ、テキストとしての信頼度は真福寺本の方が高いと考えられる。それでは本書の資料価値は那邊にあるのであろうか。

各注釈がそれ自体で完結し、体系的思想を有しないという『往生要集裏書』の性格は、自身に必要な注釈項目だけを抜き書きした所でテキストとして齟齬を生じないという側面も有する。先述の通り、従来確認されていた『往生要集裏書』は真福寺本、並びに『往生要集義記』所引の二文のみであり、このような資料状況の中では、真福寺本『往生要集裏書』が祖本『往生要集裏書』の原形態を保っているのか、若しくは

抄出本であるのかを判断することは不可能と考えられる。

このような現状において、金沢文庫本という九文の注釈対象を有する断簡が出現したことは大きな意義を有する。両書の比較により金沢文庫本は誤字・脱字と考えられる箇所がまま見られたが、注目すべきことは『往生要集』大文第一厭離穢土、總結要行から大文第二欣求淨土、増進仏道樂までの範圍（大正蔵）84巻、40頁c段から46頁a段に亘る）において注釈の対象とされる『往生要集』の抜き書きが一致していることである。現在、管見ながら確認できた『往生要集裏書』、真福寺本（1235年頃成立か）、金沢文庫本、『往生要集義記』（1282年12月から1287年の成立と考えられる）<sup>(10)</sup>所引の二文の何れもが一致しており、金沢文庫本・『往生要集義記』所引の二文、それぞれ固有の『往生要集』注釈はみられない。もちろん真福寺本と金沢文庫本の関係、金沢文庫本の書写年代等が明確でなく、比較対象も僅かな為、断定はできず早計のきらいはあるが、現時点の資料状況からすれば、真福寺本は抄出本ではなく原形態を保っている蓋然性が高いと考えられ、少なくとも鎌倉期における流布形態を留めているものと仮想される。

#### 小結

従来、未紹介であつた金沢文庫蔵『往生要集裏書』断簡の書誌概要を紹介し、そこに注釈対象として抜き書きされる九文

の『往生要集』、並びに『往生要集義記』所引の二文の何れもが真福寺本と一致することより、真福寺本は祖本『往生要集裏書』の原形態を留めている蓋然性が高いと考えられることを指摘した。金沢文庫本の存在はそのような知見をもたらすものであり、真源撰『往生要集裏書』研究において必須の新出写本と言えよう。

末筆ながら貴重な資料の閲覧に当たり御高配賜りました  
 称名寺御住職・須方隆證様ならびに高橋秀榮様をはじめとする  
 県立金沢文庫御当局様、宝生院御眞首・岡部快圓様ならびに  
 宝生院御当局様に衷心より甚深の感謝を申し上げます。

1 真源の行実・著作、真福寺本については、筆者口頭発表「真源撰『往生要集裏書』について」（2004年度秋季、韓国日本文化学会、於韓端大学校）

2 拙稿「県立金沢文庫蔵『往生裏書』解題・翻刻」（『仙石山論集』2、2005）

3 『往生要集抄（鈔）』と『往生要集義記』の相違については本庄良文『往生要集義記』第一―訓み下しと現代語譯（八）―大焦熱地獄―（『浄土宗学研究』31、2005）参照。

4 真源が本説として引用した文は、その原文（『大正蔵』による）よりも寧ろ『止観輔行伝弘決』と一致するケースがみられ、真源の附注方法の一端が伺える。

5 同様の性格を有するものに平基親（1151―？）撰『往生要集外

典抄』がある（佐藤哲英『叡山浄土教の研究』資料編、259―274頁）。なお本書は真福寺本『往生要集裏書』に継ぎ同筆で書写されている。

6 池田源太「平安時代に於ける「本文」を権威とする学問形態と有職故実」（『奈良・平安時代の文化と宗教』、1977）、山崎誠「学侶と学問」（説話の講座3『説話の場―唱導・注釈―』、1993）。  
 7 福原隆善「叡山における『往生要集』の展開」（『往生要集研究会編『往生要集研究』、1987、250頁）。佐藤哲英『叡山浄土教の研究』研究編、1979、271頁。

8 同様の指摘は山崎誠「平基親撰『往生要集外典抄』考」（『中世学問史の基底と展開』、1993、447頁）。智山伝法院編『真福寺文庫撮影目録』上、1997、343頁にもみられる。

9 山崎誠氏も「授決集の裏書と考えれば問題ない」と述べられている（『中世学問史の基底と展開』、1993、449頁）。なお『往生要集義記』における引文に関しては真福寺本から逆照射し、改めて検討する必要がある。

10 大谷旭雄『往生要集義記』について（『浄土学』36、1984）。  
 11 真福寺本・金沢文庫本・『往生要集義記』所引の何れもが「祇園寺無常堂四角有頗梨鐘」（『大正蔵』84、40頁b）の文を注釈の対象としており、真源所覧の『往生要集』は所謂「留和本」系統のものであると考えられる。

（キーワード） 真源、『往生要集裏書』

（国際仏教学大学院大学）

Teaching by Saichō. I alter the point in question to study some of Zhiyi's or Zhanran's illustrations of the term "yuanji/enki" and contrast their interpretations to Saichō's. In conclusion, though Saichō's uses of "enki" are based on Tendai Buddhism, they also contain his original point of view.

**125. A Bibliographical Introduction of Shingen's *Ōjō uragaki* 往生裏書 in the Kanazawa-bunko Museum**

Tomofusa UESUGI

The text of the *Ōjō uragaki* 往生裏書 is owned by the Kanagawa Prefectural Kanazawa-bunko Museum. This is a fragmentary version consisting of 14 sheets and lacking the introductory and final parts. "*Ōjō uragaki* 往生裏書" apparently was a provisional title. The formal title of the work is unknown. However, I compared it with the *Ōjō yōshū uragaki* 往生要集裏書 version in the Shimpuku-temple 真福寺, and my conclusion is that they are almost identical texts and that the original title was "*Ōjō yōshū uragaki* 往生要集裏書".

The *Ōjō yōshū uragaki* 往生要集裏書 is an annotation of the *Ōjō yōshū* 往生要集 by Shingen 真源 (1064-1136). The work actually represents an investigation into the textual sources of the *Ōjō yōshū* 往生要集.

I compared the Kanazawa-bunko version of the *Ōjō yōshū uragaki* with the Shimpuku-ji version, and the characteristics of the former became clear: 1) Judging from the number of its Chinese characters, the Kanazawa-bunko version represents a third of the Shimpuku-ji text. 2) The sheets in the Kanazawa-bunko version are not arranged in the correct order. 3) The missing introductory part amounts to about 3 sheets.

The *Ōjō yōshū uragaki* 往生要集裏書 has been so far known only in its Shimpuku-ji version. The discovery of the Kanazawa-bunko version makes it possible to collate the two texts and opens the way for a critical edition. I hope that my diplomatic edition and study will contribute to this.